

# OPEN:テス豆 一枚目



チームの方へのコメントをお願いします！

パラドクスというのですが、殺虫剤が効かなくなったデータはありますか？

サインイン機能はもう効かなくなったと思いますため、代表値網羅の選定を工夫とかできればと思います。

p11に「実装に手間がかからず、よく使われそうで、不具合がありそうなところに絞って、自動化する」と書いてありますが、「使われそう」「不具合がありそう」の選定は主観なのでしょうか？

実装の手間は、手順をかげえることで、大まかな数値判断が出来ると思いますが、よく使われそう、不具合多そうについては、レビューでの意思決定となっております。機械的な意思決定は、今後の課題です。

テストスイートアーキテクチャによって、どのようなテスト順序の最適化ができたのでしょうか？例えば重要なテストを早い段階でできるとかはありましたか？

重要なテストを行う上で、前提となるテストがあったりすると、なかなか前倒すことは難しいのですが、そのぶん、重要度におうじて、網羅基準に濃淡をつけることで、重要なテストのリソースを確保していけます。

使い方

コメントはこのような付箋で張ってください。否定的なコメントだけでなく肯定的なコメントをお願いいたします。付箋の色は下記のカテゴリで利用してください。

シートが付箋で沢山になりましたら上の下記を押してページを作成してください

1/7 → +

感想 質問 回答

2回目で満足せずに、ぜひ継続して活動ください。

テスト中に発覚した不具合をきっかけにした自動テストはありだと思います。Good Job!

テスト計画の形でスコープが明示されている点がいいなと思いました。

ありがとうございます。まさにテストの7原則「欠陥の偏在」探索的テストに生かせれば。

この機能を選定して、良かったことは、「QFって何ができるの？結構使えそうだ」を説明できる実感が持てる機能選定になった点では、良かったのではないかと感じております。

発表には見られませんでした。うれしかったことが多かったのでは？と推察します。

使用されたテスト技法はユースケーステストのみでしょうか？他に使っているテスト技法があれば知りたいと思いました。

状態遷移図と、状態遷移表からテストケース生成は有名なので、ただ使うだけでなく、使いついてを議論できればと思います。あとは、ベタですが、ディシジョンテーブルテストですかね。

自動化を行うリソースを得るために、妥当性を高めるようなコメントをください。

「最低限のテスト」というところだと、同値分割の考え方も導入できるかもですね（Zoomチャットから転記）

そうですね。同値分割の考慮の良さ、抽出できる不具合までで議論して、最適なリソース見積りに生かし、工数とってできるプロセスにしたいです。

まずは、「対象を絞って自動化」という点で、実装まで着地し、問題点の発見もできたことはうれしかったです。ただ、テストの全体像としてのテストアーキタイプとしては、順序以外にも見逃せるものでないかなあ、と少ししみみ実感しました。この体験も、得たうれしさもありません。

最初は、よくあるテストツールのように、「網羅基準は一緒」としてあります。ただ、今回みたいに問題点を見つけた機能のテストについては、もう1段階高い網羅基準を設定して、テストを厚くできると思います。

早速に説法がもしもせんが、網羅基準については、例えばユースケーステスト技法であれば例外パス異常パスまでテスト実装するかどうか、状態遷移テストではスイッチカバレッジをどの密度満たすか、といったところ活用できると思います。

おっしゃる通りと思います。精進します。

特にテス豆さんの場合は、状態遷移テストのカバレッジ基準についてはテスト対象システム、自動テストシステムの両面から定義できそうに思えました。

質問

質問

1 次ページでお返事します。

# OPEN:テス豆 二枚目



チームの方へのコメントをお願いします！

まさにリスク  
ベースドテスト  
ですね。ありが  
とうございま  
す。

テストしなかつた  
場合のリスクが典  
型的なリソース要  
員だと思えます。

特にテス豆さんの場合  
は、状態遷移テストの力  
バレッジ基準については  
テスト対象システム、自動  
テストシステムの両面から  
定義できそうに思えまし  
た。

そうですね。テスト対  
象システム、自動テス  
トシステムでの両面での  
定義の良さまで議論し  
て、最適なリソース  
見積りに生かせるよう  
にしたいです。

そういう意味では、今回ス  
コープ外とした非機能的  
な品質特性(性能など)は  
テストのスコープに含める  
よう検討する価値はある  
かもしれません。

そうですね。非機能要  
求、観点、テストケー  
ス、手順におとし、何  
人月かかる。かけない  
と、損失、リスクはこ  
うなる。という分析を  
高めます。ありがとう  
ございます。

テスト自動化の効  
果は工数削減とい  
うよりかは、リード  
タイムの削減のほ  
うがしっくりきま  
す。

ありがとう  
ございま  
す。

使い方

コメントはこのような  
付箋で張ってください。  
否定的なコメント  
だけでなく肯定的なコ  
メントをお願いいたし  
ます。付箋の色は下記  
の分類で利用してくだ  
さい。

シートが付箋で沢山に  
なりましたら上の子記  
を押してページを作成  
してください



感想

質問

回答

感想

質問

感想

質問

感想

質問

感想

質問